

2018年6月6日

### 動物虐待報道に対する南アフリカモヘア業界の最終報告書

モヘア・サウスアフリカは、牧場主、牧場労働者、契約労働者、どのような人かに拘わらず 動物に対するどのような虐待行為も糾弾します。

今般の PETA の指針・政策ならびに The Animals Protection Act (動物保護法) 71 (1962 年施行) に反する行為を収めた映像が配信されたことに伴い、モヘア・サウスアフリカは、直ちに南アフリカアンゴラ羊牧場に動物虐待の疑いに関する調査を実施しました。同時にまた完全で公正な調査が遂行されるために、独自に SAMIC という品質保証会社にも調査を依頼し、PETA により指摘された牧場の監査を行いました。

その調査により、ビデオに登場する 剪毛を行っている牧場 2 か所を特定しました。その 2 か所の牧場は、同じ剪毛専門業者と契約をしていました。そこで、モヘア・サウスアフリカは、その契約剪毛業者に対し、ビデオにあるような明らかにガイドラインに反した行為に関しての説明と報告書の提出を要請しました。また、ビデオに映る剪毛担当者による違反の過程、モヘア・サウスアフリカのガイドラインや政策に反する行為の防止策・そのための方策を提出するよう要請しました。

モヘア・サウスアフリカは、ビデオに取り上げられることによる懸念事項、このような虐待行為に対する対応、アンゴラ羊を守るための防衛手段の実施、倫理的に持続可能なモヘア産業のために最も重要な健全化について 動物虐待防止国民評議会(National Council of the Societies for the Prevention of Cruelty to Animals – NSPCA)と会談を行いました。

PETA が指摘した申し立てに関する NSPCA が独自に行っている調査に全面的に協力することを申し出ました。

違法剪毛行為が指摘された当該牧場は、現在モヘアの競りへの参加停止としております。保護監視期間を経て次回の剪毛日時をモヘア・サウスアフリカへ報告しなければならないとしました。モヘア・サウスアフリカは、第三者調査委員会と共に、その剪毛に立ち会い持続可能な業界のガイドラインの順守を確保します。NSPCA が、もし必要であるとして剪毛の際に監視チームを派遣するのであれば異論はありません。

モヘア・サウスアフリカは、南アフリカのみならず世界的に持続可能なモヘア産業であることにコミットしており、業界のよりよい整合性、基準、責任あるサプライチェーンへの業界の転換期を会員企業と寄り添いながら遂行している非営利団体であるテキスタイル・エクスチェンジ (Textile Exchange) のメンバーでもあります。テキスタイル・エクスチェンジは、畜産、原料、加工、トレーサビリティや環境に対する負荷を軽減するため製品寿命など 最良の慣行を特定し共有しています。

これらが表面化するかなり前から、モヘア・サウスアフリカは、総合的なトレーサビリティ・システムを導入しており、すべての天然モヘア使用製品に関して正確な原産地を導き出すことができます。この機会に、モヘア・サウスアフリカは、アンゴラ羊牧場の継続的な査定を行うために、新たに人員を配置し 第三者による査定も できる限り多くの牧場で実施できるように推奨していきます。査定と納得いく格付けはモヘアの販売促進には必要です。生産者の格付けも販売されるモヘアに反映する形で公表していくつもりです。これは モヘアを購入されるすべての方に倫理的に生産された製品であることを約束するものであります。もし、その査定によって生産者が満足のいく評価を得られない場合、サステナビリティ適格性認証は授与しません。この認証制度の導入は、モヘア生産者の非倫理的行いを阻止することになり、安全・倫理観・持続可能な自然繊維とサステナブルに生産することに自らのプライドをかけ モヘア業界全体を自主規制する力となるでしょう。

モヘア生産に携わる人は、およそ 3 万人とされています。その多くは、広大で、荒涼とした半砂漠地域に点在するカルー(Karoo)に住んでいます。モヘアの使用禁止は、これらの弱者を貧窮に貶め、モヘア産業の破滅へとつながり、南アフリカで飼われている 80 万頭のアンゴラ羊を失うこととなります。モヘア・サウスアフリカは、これら 80 万頭のアンゴラ羊の継続的な安全と倫理的な扱いに対する責任があるばかりでなく、何万というモヘア産業を生業としている人々の生活にも責任を負っています。

天然繊維の倫理的な生産を進展させるという義務の履行に関して、モヘア・サウスアフリカは、モヘアの使用禁止を決断した国際的な衣料ブランドと話し合いを継続する、と同時に、我々の基準を満たさない人やその行為を継続して監視していきます。

マネージングダイレクター  
ディオン・シーマン